

「もしも」の時に備えて その5

9月に入り朝夕は、秋の気配を感じるようになりました。ご家族の皆様のご体調にはお変わりございませんか。

さて、9月1日防災の日から今日で一週間が経ちました。防災週間は、本日7日で終わりになりますが、私たちの生活は、様々な災害に備える行動を続けていかなければなりません。下記の文章は、9月1日の放送朝会で、子どもたちに話をしたことを少し詳しく書いています。

『おはようございます。校長先生から皆さんにお話をします。しっかり聞いてくださいね。

さて、皆さんは、「今日は何の日か知っていますか？」

今日、9月1日は、「防災の日」と言われています。今からおよそ60年前の1960年に制定されました。そして、今日一日を含め1週間の期間を「防災週間」と定められています。

なぜ、9月1日が「防災の日」となったのかというと、二つの理由があるようです。

一つは、1923年（大正12年）、9月1日、今から約100年前になりますが、東京（関東地方）が、大きな地震（推定でマグニチュード7.9）に襲われました。「関東大震災」と名付けられています。ちょうどお昼時に起こり、昼食の支度をしていたこともあったのか、木造家屋は軒並み崩れ、火災が発生し、関東地方一帯が焼け野原になってしまったということです。亡くなった方も推定10万5千人もおられたそうです。枚方市の人口が約40万人とするとその亡くなられた数の多さがわかりますね。とても恐ろしいことです。

もう一つの理由は、特に昭和の時代から平成の時代、9月・10月は、台風被害がとても多く、毎回、大きな被害を受けていました。特に1959年に発生した「伊勢湾台風」は、明治時代以降発生した台風の中でも最も多い犠牲者を出した台風で、その要因は、高潮の発生と堤防が崩壊したことが考えられるということで、防災対策を見直すきっかけになりました。そして、翌年に防災対策を進めていくことをみんなが意識するようにと「防災の日」が制定されたのです。

現在は、新型コロナウイルス感染症拡大、地震、異常気象がもたらす集中豪雨・土砂災害・洪水などなど、過去に経験したことがないような様々な災害が、突如として襲ってくるようになってきました。

先行きが見通せない、誰もが不安な気持ちになってしまいます。しかし、人は一人だけで生きているわけではありません。殿山第二小学校には、現在420名の子どもたちが学んでいます。先生たちもいます。お家の方々、そして、地域の方々、多くの人たちが、これからの社会を担っていく皆さん方（子どもたちのこと）を愛情深く育てていきたいと思っています。

このような時だからこそ、人と人のつながりをより一層大事にしていきたいと思います。

お 願 い

今般の社会状況の成行きによっては、学校行事等、やむを得ず予定変更する場合があります。子どもたちの安全・安心を第一に考え、個人情報保護には十分留意し、各学年児童の成長段階に応じて判断していきたいと考えています。

その場合、速やかにミルメールやタブレット クラスルーム、ホームページブログなどで、お知らせさせていただきますので、どうぞ、ご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。